



肝ぞう通信

第 3 号 《 自己免疫性肝炎と原発性胆汁性胆管炎 》

お知らせ

肝疾患医療センターは、肝疾患に関する心配事や悩み事のご相談にお応えしています。当院では、総合相談室が窓口になっております。

場所：病院 1 階
総合相談室

受付時間：
平 日 9：00～15：00
土曜日 9：00～12：00
(第 2・4 土曜日除く)

豆知識

自己免疫性肝炎と原発性胆汁性胆管炎はまれな病気ですが、肝機能障害の原因として重要な疾患です。お気軽にご相談ください。

次回号

テーマ：免疫チェックポイント阻害薬とは？
8月発行予定

発行責任者

東海大学医学部付属病院
肝疾患医療センター長
加川 建弘

自己免疫性肝炎とは？

自己免疫性肝炎は、慢性に経過する肝炎で、肝細胞が障害されます。自己免疫性肝炎が発病するのには自己免疫が関係していると考えられています。血液検査では、AST (GOT)、ALT (GPT) が高値になり、中年以降の女性に好発することが特徴です。最近の調査により、急性肝炎として発症する自己免疫性肝炎の存在が明らかとなっており、まれに重症化します。英語では Autoimmune Hepatitis と言い、AIH と略して使われることがあります。

治療では免疫抑制剤、特に副腎皮質ステロイド（主にプレドニゾロン）が著しい効果を発揮します。現時点では根治することはできない病気ですが、ステロイドなどで治療をきちんと行えば、自己免疫性肝炎の経過は概ね良好であり、生存期間は健康な人と差がありません。しかし、適切な治療が行われないと、肝硬変・肝不全へと進行します。肝がんを併発することもあります。なお、ステロイドや免疫抑制剤などが効きにくい患者さんも、まれですがおられます。できれば肝臓専門医のもとで治療をうけていただき、AST (GOT)、ALT (GPT) を基準値内に維持することが重要です。